（中国丙01）
インフルエンザ
発生推移
＝ 2026年7月度 ＝

発表：2026年8月13日全国NDPCA

作成：2026年8月19日

日中医療衛生情報研究所

インフルエンザの分類について

- ここには一般の季節性インフルエンザと
（2013年11月分以後の）H1N1型が含まれていたが、
2025年9月1日より中国感染症予防治療法が施行されている点に注意。
- 中国でしか感染者が出ていない
H5N6や、H9N2については、

界面サイトでのH5N6患者に関する記述から、
「その他感染症」に分類されていることが判明しました

⇒ https://www.jiemian.com/article/5659382.html
（の最終パラグラフご参照）が、

⇒ 2025年9月度月報から、H9N2やH5N1、H5N6など、
所謂鳥インフルエンザが乙5の『ヒト感染新亜型インフルエンザ』
とされるようになりました。

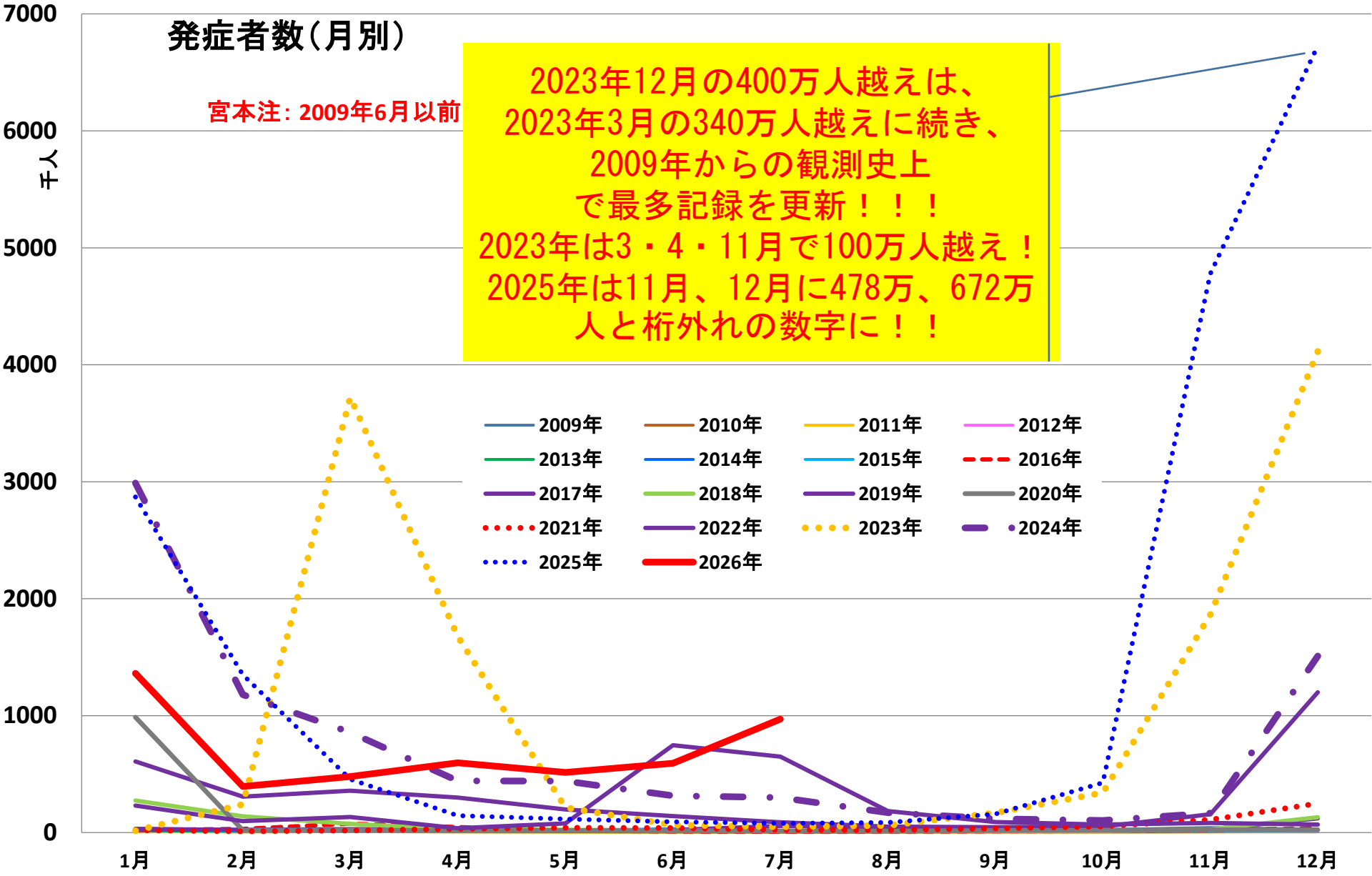
中国インフルエンザの特徴

2008年からこれまでを振り返ってみると、
　年間4万人（2009年）から350万人（2019年）までと振幅が大
コロナとインフルエンザの関係についての疑問:
　　2019年12月は1,199,771人
　　2020年01月は　986,543人
この2か月連続100万人という状況を、
衛生当局は検査体制の向上によると主張。
これに対し
　　2020年12月は　23,546人
　　2021年01月は　20,232人 となった
謎が一層深まる数字が飛び出した感じ:
’19年末の急増にコロナ患者が含まれていたのでは？…

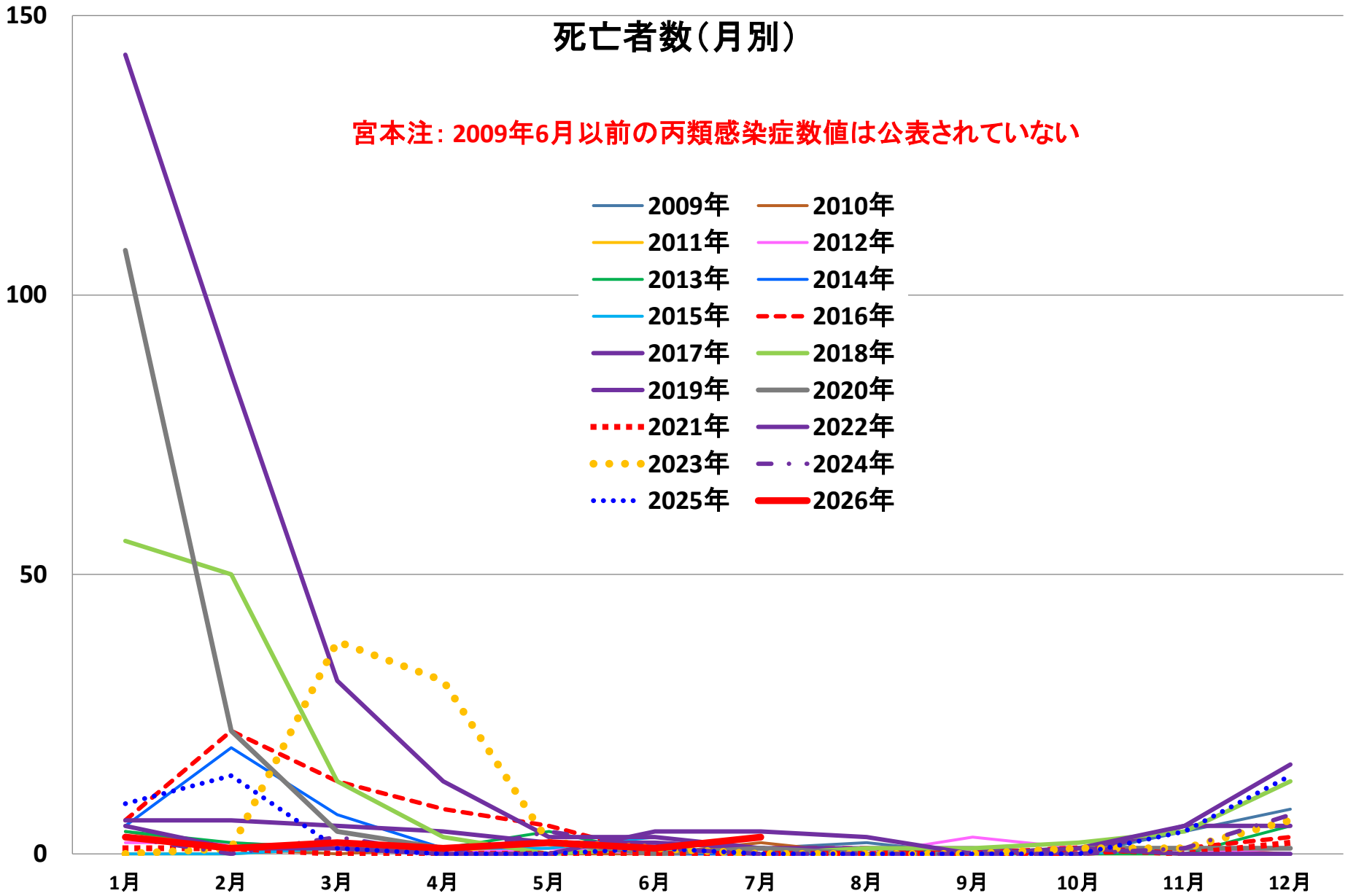
突然爆増する中国のインフル

2008年からこれまでの追跡の中では、
年間4万人（2009年）から350万人（2019年）までと振幅が
大きいが、コロナが見つかる直前の12月の爆増以外にも
単月で突如爆発するケースが増えている:
例としては、
2019年12月に1,199,771例・2020年01月に986,543例、
2022年6月に747,038例、7月に648,465例となり、
（双極性を示すことが多い南方での発症者の影響？）
2023年3月には372万例、4月168万例、11月186万例、12月411例人となり、1年のうち4か月で巨大な流行に！！）
2024年も、**8,417,396**例（確報）に。
2025年の累計ベースでは17,281,873例と莫大な数字に。

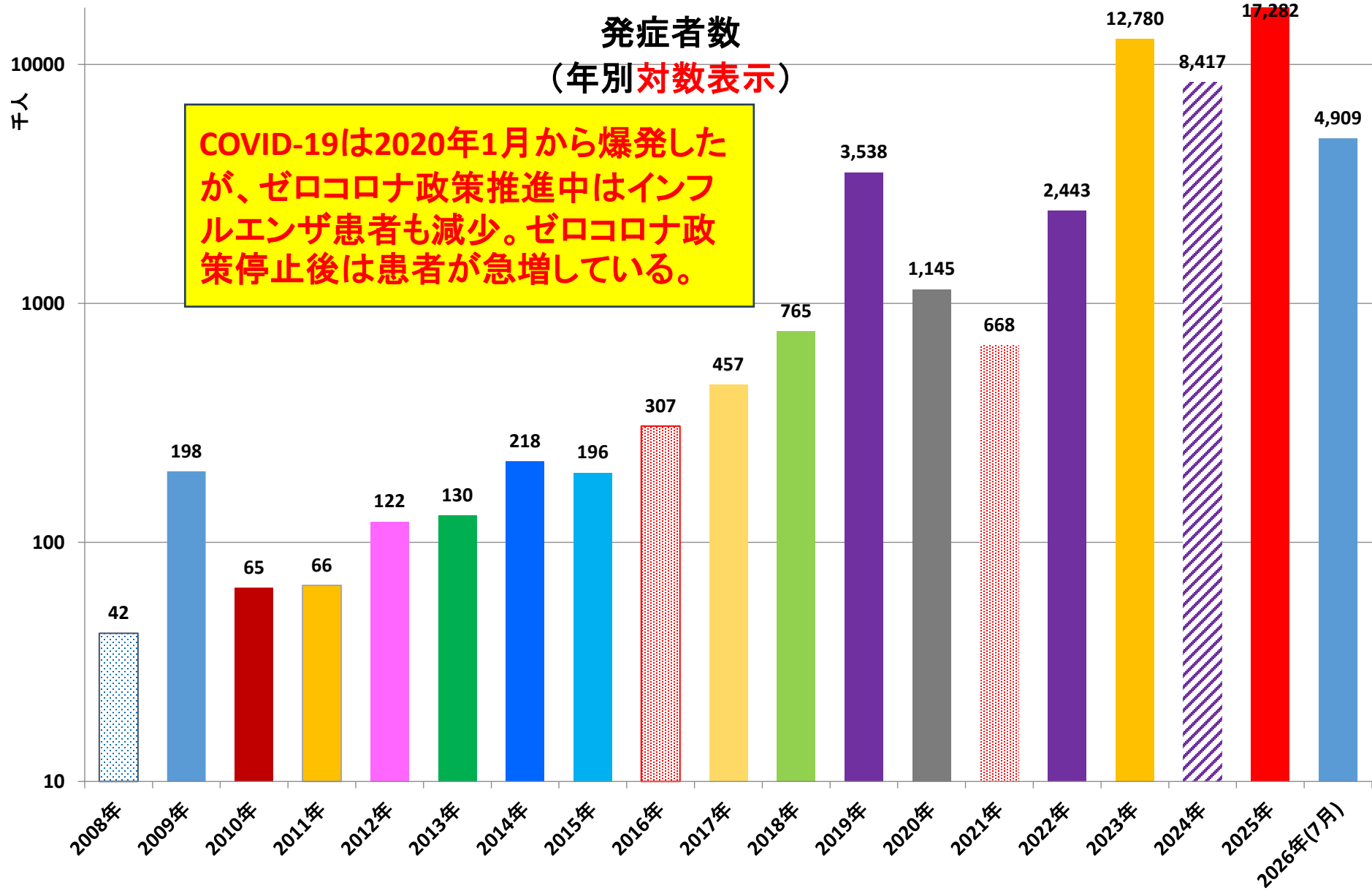
丙01: インフルエンザ発症者数



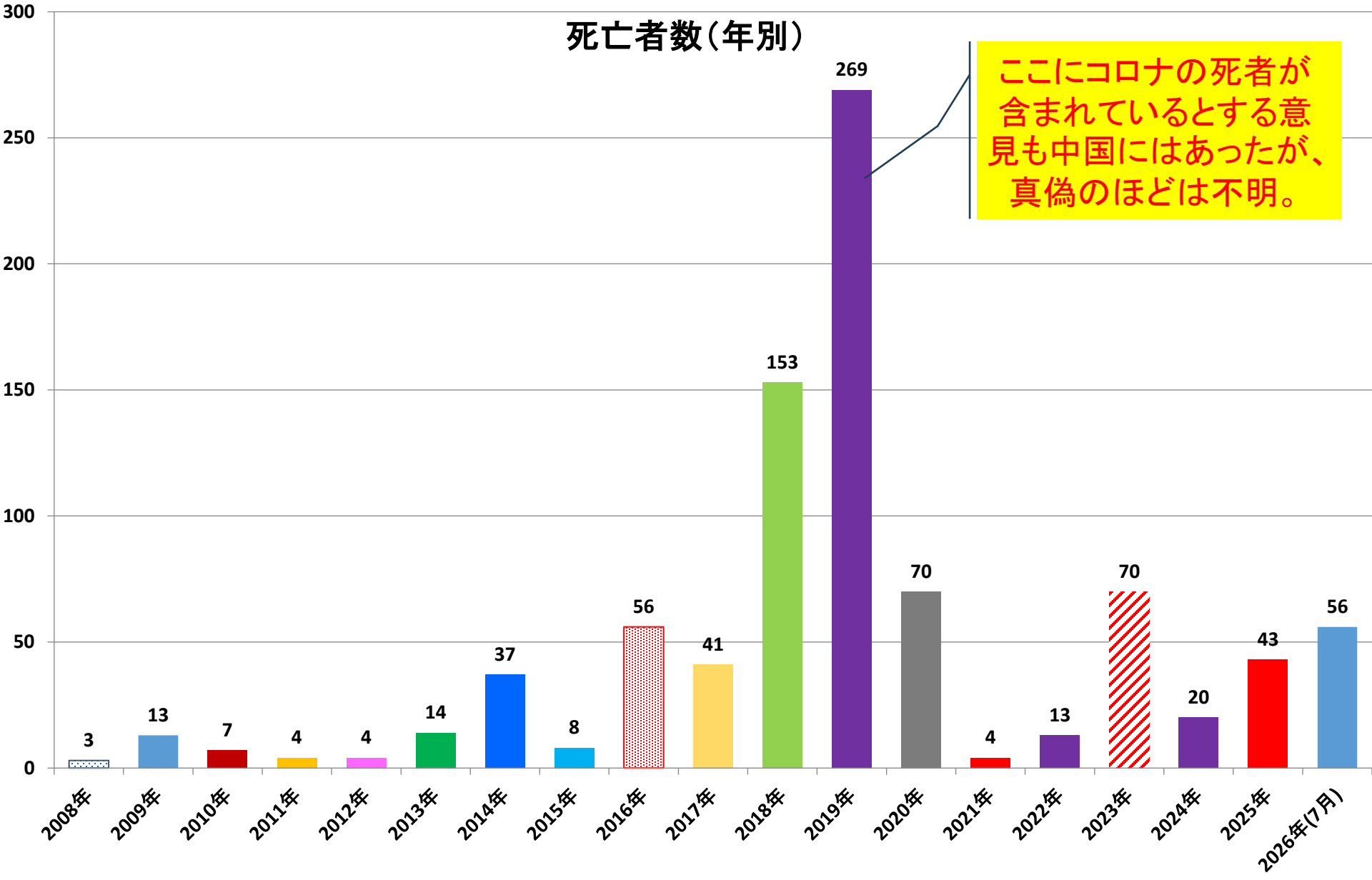
丙01: インフルエンザ死者数



丙01：インフルエンザ


発症者数
（年別対数表示）
COVID-19は2020年1月から爆発したが、ゼロコロナ政策推進中はインフルエンザ患者も減少。ゼロコロナ政策停止後は患者が急増している。
千人
10000
1000
100
10
42
198
65
66
122
130
218
196
307
457
765
3,538
1,145
668
2,443
12,780
8,417
17,282
4,909
2008年
2009年
2010年
2011年
2012年
2013年
2014年
2015年
2016年
2017年
2018年
2019年
2020年
2021年
2022年
2023年
2024年
2025年
2026年(7月)

丙01：インフルエンザ


死亡者数（年別）
ここにコロナの死者が含まれているとする意見も中国にはあったが、真偽のほどは不明。
300
250
200
150
100
50
0
3
13
7
4
4
14
37
8
56
41
153
269
70
4
13
70
20
43
56
2008年
2009年
2010年
2011年
2012年
2013年
2014年
2015年
2016年
2017年
2018年
2019年
2020年
2021年
2022年
2023年
2024年
2025年
2026年(7月)